



第六輯 建築と社會 第九號目次

繪

○ハンガリーアタベスト市の建築家ドクトルピカン氏設計の住家
 (最も神秘傾向を帯びたるデザインを視よ)
 伊太利國ピテルボ州アレキサンドロ街の中世紀の住宅(奈何にも間の抜けたるが如くして暢達氣分に富めるデザインを視よ)

〔卷頭〕

□物的運動と藝術

〔論說〕

□超過渡期 工學士 橫濱 勉 二

□アパートメントハウスに就いて 工學博士 武田 五一 六

□忘れられたる住宅の半面 農學士 大屋 靈城 六

〔研究〕

□所謂大谷石の庇に對する私 村野 藤吾 四
 の見た帝國ホテルの感じ

〔住宅〕

□千里山の新しい邑より 郊 邨 三
 土地住宅會社行脚(A)

〔都市〕

□紐育の脅威されたる建築界 一 記者 四

〔資料〕

□「るくそる」から「さつから」の一日 工學博士 八戸成蟲樓 四
 埃及旅行記の二

〔講演〕

◆淨化裝置に就て (二) 工學士 米元 晋一 七

〔漫錄〕

□古寺巡禮 (其一) 池田谷久吉 四

◆滿鮮紀行 (三) 波江 悌夫 七

□涼しい「暑い」講演を聞いて 家族の一人 吉

□葉月の追憶 忘 而 草 六

〔會報〕

◆日本建築協會八月中記事